

被服衛生学セミナー開催記録

| 回 | 総合テーマ | 会場 | 開催日 |
|-----|-------------------------------------|----------------------------|---------------|
| 1. | 衣服気候について | 富士教育研究所・裾野 | 1982.4.2~3 |
| 2. | ヒトの体温生理および被服の温熱特性 | 神戸ポートピア・神戸 | 1983.4.2~3 |
| 3. | clo値を考える | 箱根静雲荘・箱根 | 1984.3.30~31 |
| 4. | 衣服気候を考える | 神奈川県立婦人総合センター・藤沢 | 1985.3.27~28 |
| 5. | 衣服圧を考える | 大阪市立労働会館・大阪 | 1986.11.6~7 |
| 6. | 発汗の生理と被服汚染 | 王山会館・名古屋 | 1987.11.6~7 |
| 7. | 皮膚感覚と衣服 | 福島グリーンパレス・福島 | 1988.10.13~14 |
| 8. | 衣服内の熱・水分移動を考える | 横浜郵便貯金会館・横浜 | 1989.9.25~26 |
| 9. | 寝床内気候と寝具 | 広島ガーデンパレス・広島 | 1990.9.20~21 |
| 10. | 高齢者の生活行動と衣服 | 京都バストラル・京都 | 1991.9.26~27 |
| 11. | 北方圏における衣服と温熱環境 | 藤学園セミナーハウス・札幌 | 1992.8.30~9.1 |
| 12. | 生体生理現象の測定とその被服衛生学への応用 | 文化学園軽井沢山荘・長野 | 1993.9.12~14 |
| 13. | 高齢化社会における被服衛生学の役割 | ラフォーレ修善寺・修善寺 | 1994.8.29~31 |
| 14. | アジアの高温多湿地域における被服衛生学の問題 | ラフォーレ修善寺・修善寺 | 1995.8.25 |
| 15. | 生体機能と衣服 | 尚絅学院短期大学・名取 | 1996.8.21~23 |
| 16. | 電磁波と衣生活 | こまばエミナース・東京 | 1997.8.27~28 |
| 17. | 21世紀における被服衛生学への期待 | 倉敷ファッションセンター・倉敷 | 1998.8.24~26 |
| 18. | いま、被服研究に求められているもの・・・心地良さの心理・生理 | 京都テルサ・京都 | 1999.8.25~27 |
| 19. | 被服衛生学 一明日への視点一 高齢者問題を学際的に考える | ホテルメトロポリタン秋田・秋田 | 2000.8.7~9 |
| 20. | 被服衛生学セミナー創立20周年記念 | 東レ総合研修センター・三島 | 2001.8.29 |
| 21. | 人間にとって被服とは何か -ファッションと健康の両面からのアプローチ- | 長野市勤労者女性会館しなのき及びサンパルテ山王・長野 | 2002.8.25~27 |
| 22. | アレルギーのはなし | 実践女子大学・日野 | 2003.8.25 |
| 23. | ストレスと今求められている衣服 | 九州大学国際交流プラザ・福岡 | 2004.8.23~24 |
| 24. | 健康を支える衣服力 | 神戸ファッション美術館・神戸 | 2005.8.8~9 |
| 25. | 着ごごち・寝ごごち・履きごごち | エル・パーク仙台・仙台 | 2006.8.7~8 |

【巻頭言】

協賛主義革命

副部長 山崎和彦 (実践女子大学)

祭囃子に合わせて鬼灯が揺れている。こんな調子で綴ったものを掲げていただくとすれば、オマエには早過ぎると言われそうである。巻頭言とは、部会発展のための祈祷文と捉えるべきであろう。ならば余計に気が退けるが、本機は既に滑走を始めたからには、これから加速して離陸する。皆様、シートベルトを着用されたい。

愛部会心はあるが愛学会心は乏しい。そもそも衣、食、住、経済、教育といった異質な領域が集まっていること自体が奇妙である。我々が一丸となって日本被服衛生学会なるものを興し、これひとつに絞って投資する方が得策ではないか。それとも学会世界の政治力学上、付かず離れずでいるべきなのか。愛学会心の欠如は私だけではあるまい。学会首脳部は、現状について如何にお考えであろう。

ここに日本被服衛生学会が発足したと仮定し、運営方法について考察する。徹底して無駄をそぎ落とし、年会費の大半を還元する。学会発表を行った者に報奨金を出す。研究チームに補助金を支給する。ちまちました会計報告は無用。論文はどんどん受理し、これにも報奨金を出す。会員以外でも共同研究者として認め、寄る者全てを飲み込む。つまり学会挙げて研究を奨励する。これが協賛主義革命である。

共産主義は怠惰を生む。協賛主義は怠惰を治す。私は根が怠惰である。ところが、かつては登倉先生、最近では伊藤先生を長とする研究チームに加えて下さったおかげで、無理をして研究し、無理をして論文を提出した。恩返しをするなら、今後、私が研究チームを作らねばならない。負け惜しみで言うが、研究費の裏付けがないというのも痛快ではないか。先年没した中野孝次に倣えば、清貧の研究チームである。